

関西全体の航空需要拡大について考える

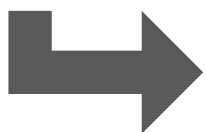
地域経済と今後の空港運営

2017年3月29日

(株) JTB西日本
観光開発統括シニアプロデューサー
塩見 正成

JTB地域交流ビジネスの領域

発着連動により、着地サイドの観点から、地域固有の魅力を発掘・育成し、
発地への流通を促進することにより、観光を主軸とした交流人口の増大を図る。



着地の人々の「こころ」を動かし、発地の「ひと」を動かす。
観光を基軸とした交流人口の増大へ！

これまでの観光

全国で画一的な旅行

旅の形	非日常型
旅の目的	名所・旧跡、物見遊山型
地域との関係	観光地が地域と乖離・ 困り込み
旅の経済性	一点豪華型

これからの観光

いきいきとした
地域との出会い

生活体験型(異日常型)

テーマ性の強い旅
(コトシフトへ)

地域の生活エリアでの交流
人との触れ合い

リーズナブルな自由形

■ 訪日外国人の旅行行動について（リピーター率）

■ アジア諸国からの訪日回数（観光・レジャー目的）

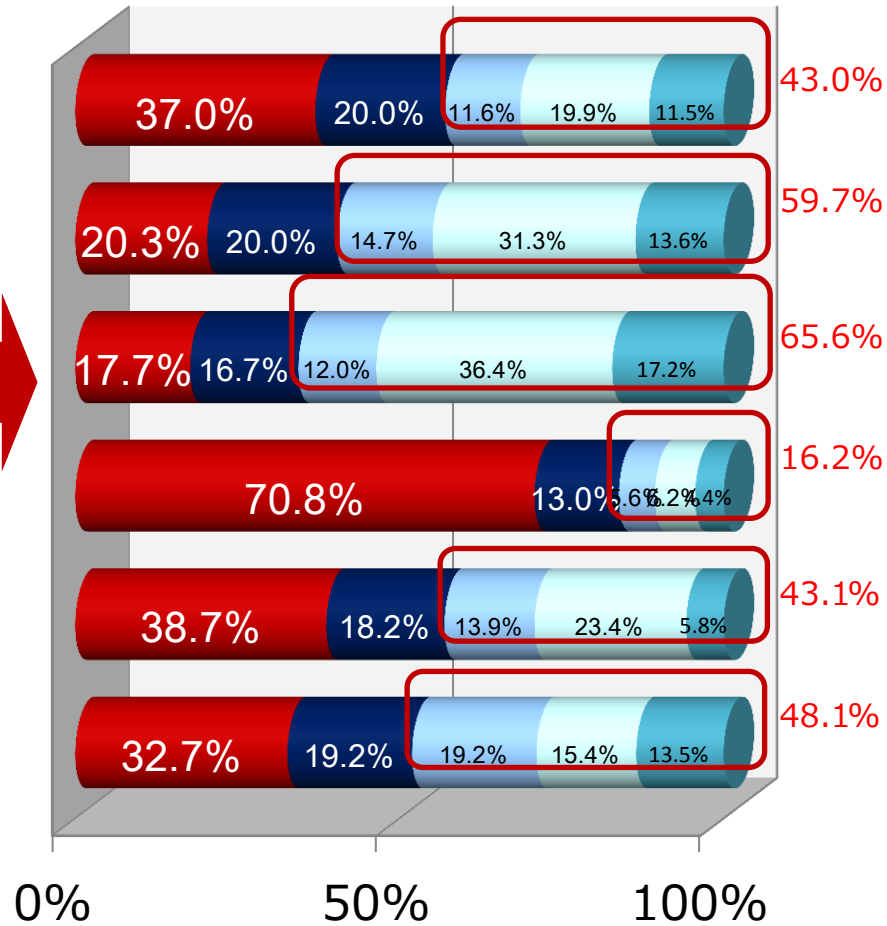
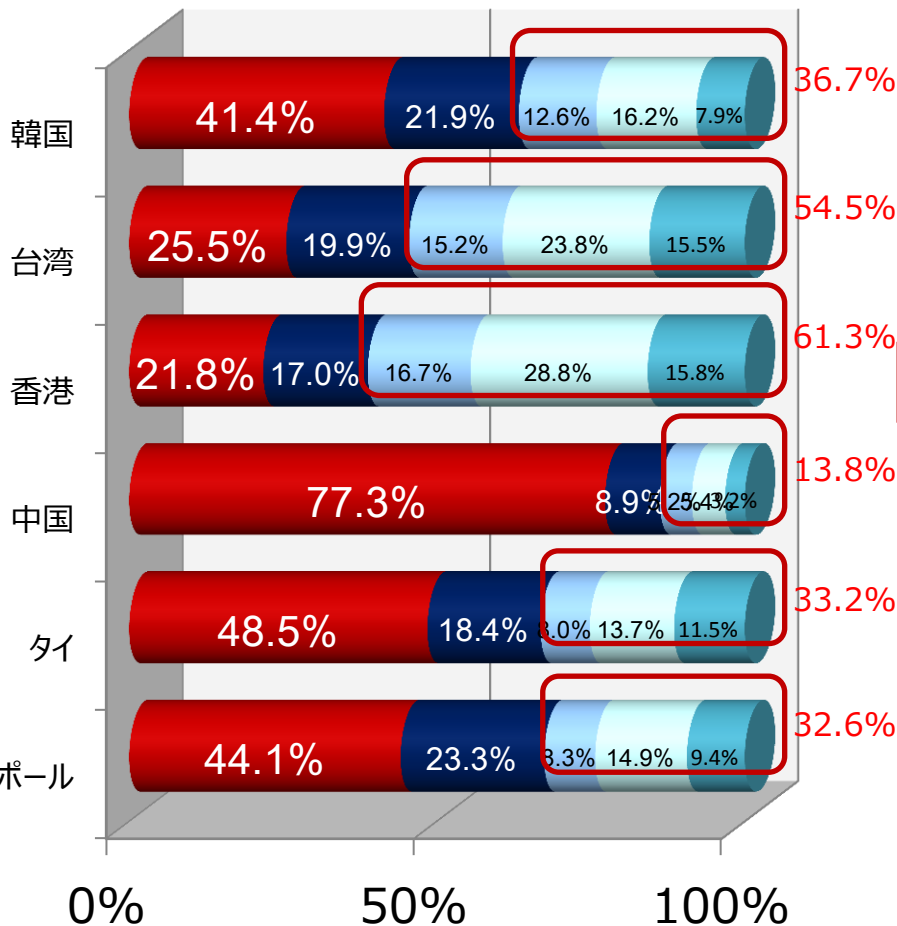
出典：観光庁 訪日外国人消費動向調査

2010年

2015年10-12月

■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4-9回 ■ 10回以上

■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4-9回 ■ 10回以上



1. 関西圏の空港に期待する役割

1. 関西圏の空港に期待する役割

「ヒト」と「モノ」の交流拠点へ

1) 旅行需要の創出

① 誘引素材と連携した空港利用の拡大

スポーツイベント

交通インフラ

レジャー開発

都市再開発

先端医療施設

<2017年>

- ・神戸アイセンター完成 (iPSを使った目の治療)

<2019年>

- ・ラグビーワールドカップ (神戸・東大阪で開催)
- ・京都大学病院iPS等臨床センター完成

<2020年>

- ・東京オリンピック・パラリンピック

<2021年>

- ・関西ワールドマスタースゲームズ
- ・中之島 再生医療国際センター完成

<2022年>

- ・北陸新幹線の敦賀延伸

<2023年>

- ・新名神高速道路全面開通

<2023年>

- ・新名神高速道路全面開通

<2024年>

- ・夢洲にI R施設が開業 (目標)

<2025年>

- ・大阪万博開催 (目標)

<2023年>

- ・うめきた2期工事完成 まち開き

<2027年>

- ・東京、名古屋にリニア中央新幹線開業

<2037年>

- ・大阪にリニア中央新幹線延伸 (目標)

<2046年>

- ・大阪に北陸新幹線が延伸 (目標)

空港と周辺アクセスの整備して、
関西を「ヒト」の交流のメインゲートに位置付ける

1. 関西圏の空港に期待する役割

「ヒト」と「モノ」の交流拠点へ

② 旅行商品を通じた需要の拡大

当社企画商品

大阪国際空港利用 : 63%

関西国際空港利用 : 26%

神戸空港利用 : 11%

※ 利便性格差により顧客ニーズが大阪国際空港へ傾注

※ 商品造成も大阪国際空港利用商品にシフト⇒席が取れず他の交通機関へ

各空港の特徴

大阪国際空港利用 ⇒ 国内ほぼすべての空港ネットワークがあり、都市圏からも近い

関西国際空港利用 ⇒ 国内線就航便数が少なく、都市圏からの移動費用が高い

神戸空港利用 ⇒ 国内線就航便・路線が極端に少なく企画商品には不向

※ 関西国際空港と神戸空港の利便性向上で商品企画も拡大し集客増が実現する

関空の動向

インバウンド、アウトバウンドともに F I T 化が急速に進んでいる

L C C 就航が拡大し多様化する旅行ニーズに適應している

※ L C C 乗入キャリア数は国内 N O . 1 の 17 社

※ L C C を活用したスケルトン型廉価商品 (A I R + 宿) 拡大の可能性

1. 関西圏の空港に期待する役割

「ヒト」と「モノ」の交流拠点へ

2) 地方空港の積極的活用 「南紀白浜空港」「コウノリ但馬空港」

空港の現状

南紀白浜空港

羽田便が1日3便就航（JAL）

年間利用者126,00名（国内61位<85位中>）

近郊観光箇所は「白浜温泉」「勝浦温泉」「熊野古道」

コウノリ但馬空港

伊丹便（経由羽田便）が1日2便就航（JAC）※東京直行便就航が悲願

年間利用者28,600名（国内79位<85位中>）

近郊観光箇所は「城崎温泉」「湯村温泉」「竹田城跡」「ジオパーク」

空港活用策

羽田便就航数を倍増し、東京ゲートINの訪日客を誘導

（周辺観光の魅力の訴求 ・ 首都圏への観光誘致）

※熊野古道・ジオパーク・老舗の温泉をつなぐ魅力ある新たなコースの開発

※オリンピック・パラリンピックに伴うトレーニング地・キャンプ地誘致

※LCC就航誘致による旅行商品造成（鉄道に勝る廉価性が必要）

1. 関西圏の空港に期待する役割

「ヒト」と「モノ」の交流拠点へ

3) 物流拠点としての機能拡充

ハブ空港化

各空港の連携により関西 3 空港が1つのハブ空港として、世界とつながる

- 関西広域の地域物産の輸出拠点
- 日本全国の地域物産のアジアへの輸出拠点
- アジア全体からの物産の中継拠点

取組事例

沖縄大交易会

那覇空港を国際物流の拠点（国際物流のハブ空港）とすることで、日本全国の特産品を沖縄へ集中させ、海外へ販売拡大することを目的としたイベント
毎年11月に開催され、サプライヤーとバイヤーがそれぞれ200社参加
イベントによる商談件数は約2273件で、成約が458件（2割以上の成約率）

J's Agri

JTBが独自に開発した仕組みですすでに稼働中
日本各地の農家と提携し、商品開発から販路の創出、ブランド化までを請け負う

国内・東アジアの物流ハブ化により、「モノ」のグローバルな交流を推進する

2 .オリンピック・パラリンピックでの関西圏空港の役割

2.オリンピック・パラリンピックでの関西圏空港の役割

オリンピックはスポーツだけでなく文化の祭典でもある (オリンピック憲章より)

関西の魅力再発見

世界有数の歴史文化都市である

5つの世界遺産が関西に集中！

文化遺産：「法隆寺地域の仏教建築物」
「姫路城」
「古都京都の文化財」(比叡山)
「古都奈良の文化財」
「紀伊山地の霊場と参詣道」
今後期待：「百舌鳥・古市古墳群」「彦根城」
伝統芸能 (能、狂言、歌舞伎、文楽)

インバウンドに絶大な人気がある

外国人人気観光地TOP10中

6つが関西圏の観光地！

魅力あるコンテンツ・資源に限りがない

エンターテインメントな生活文化資源！

ショッピング (商店街巡り・日本橋はトレンド)
グルメ (食文化の多様性他)
お笑い (関西人の親しみやすさ)

持続的な流れに

「モノ」から「コト」への流れ
生活文化資源への興味

観光ルートの開発

⇒アジアインバウンドは買い物から体験へ移行

関西独特の“素材”を活かしたルート開発
(歴史・文化・街並・自然・食)

白浜空港利用のルート開発
(熊野古道と白浜・勝浦温泉 歴史散策)

但馬空港利用のルート開発
(ジオパークと城崎温泉 自然と風情)

『日本の美に出会う 5つの世界遺産と7つの絶景』

関西広域のテーマのある観光周遊ルート
「美の伝説」

THE FLOWER OF JAPAN KANSAI

をブランド化し観光のムーブメントをおこす

2. オリンピック・パラリンピックでの関西圏空港の役割

スポーツ関連需要の創出支援・関係事業者との連携

スポーツ関連需要促進

キャンプ・トレーニング地誘致支援

関西圏各空港と首都圏空港との就航ネットワーク網を充実させ、スポーツ需要を取り込む



自治体や旅行社と連携し、各国スポーツ団体への積極的な誘致を推進・サポートする

【取組例】

- ①国内各地のキャンプ候補地誘致
- ②キャンプ場移動の中継地点化
- ③交流試合等の開催会場誘致
- ④キャンプ利用に伴う観光地化推進
- ⑤新たなスポーツイベントの開催促進
- ⑥アフターオリンピック需要の取込み

滞在観光・M I C E 関連需要促進

「宿泊環境」の整備

2020年インバウンド目標4000万人
2030年の目標は6000万人
(2016年度実績2400万人)



「農山漁村民泊」「古民家泊」「空家改装」

「プライベートジェットの誘致」

「I R」「ワールドマスタース」に伴う訪日富裕層
発着枠の空いている「神戸空港」を中心にビジネスジェット・ヘリの利用も含め誘致強化



「世界規模のM I C E 誘致」

オリンピック後の大会・会議・見本市等需要
取込拡大に向けて



世界水準の「国際会議場」「展示会場」が必要

観光関連事業者、キャリアとの連携

2.オリンピック・パラリンピックでの関西圏空港の役割

首都圏空港との連合体の形成

東京国際空港（HND）・成田国際空港（NRT）・関西国際空港（KIX）の国際空港連合体を形成し、2020年4000万人を見込むインバウンド需要に対応



- ①各空港間移動の乗継シャトル便就航便を拡大
- ②東京IN・関西OUT（あるいはその逆）の移動行程へと誘導
- ③JRとのアクセス連携も視野に入れる
- ④海外チャーター便就航の誘致（神戸空港も含め）

インバウンド需要に伴い旅客の受入れの逼迫が予測される首都圏空港からの日本人アウトバウンドへの代替空港としての席の供給



- ①首都圏＝関西空港間移動の国内線就航便を拡大
- ②LCC就航の更なる促進
- ③空港周辺宿泊施設との連携（国際線乗継前泊、後泊）
- ④海外・国内チャーター便就航の誘致（神戸空港も含め）

3.民営化後の空港に期待すること

3. 民営化後の空港に期待すること

世界と直接つながる、日本のメインゲートに！

関西3空港の機能整理と役割分担

関西国際空港 (KIX)

- 国際線のグローバルネットワークを更に拡大
- 空港機能の **24時間フル活用** (早朝・深夜便拡大)
- 着陸料の低減**による就航キャリアの拡大 (LCC誘致拡大)
- 国内線乗り継ぎ便の便利性向上 (空港間アクセスの整備)

国際便網の充実した
24時間稼働空港
※東アジアハブ空港
【国際線メインゲート】

大阪国際空港 (ITM)

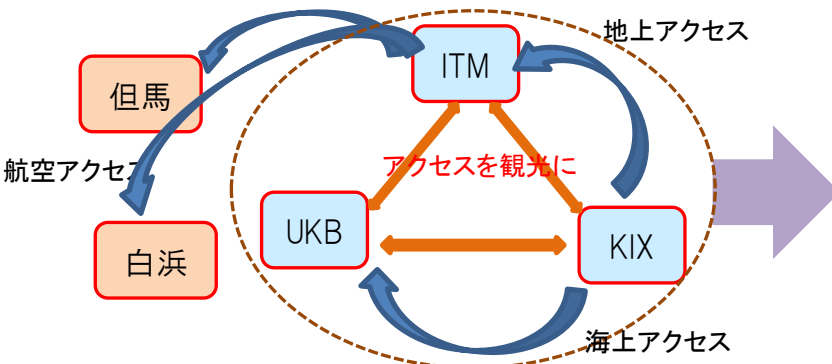
- 国内線の更なる便利性向上 (全空港展開と便数拡大)
- 関西国際空港からの**国内乗継機能充実** (ミッシングリンク整備)
- 地方ローカル路線の神戸空港との就航分担
- 国内線チャーター便の受入れ**

全国内路線を網羅した
交通便利が良い空港
【国内線メインゲート】

神戸空港 (UKB)

- 就航便の拡大**と**運用時間の延長**による深夜発着枠活用
- 関西国際空港からの**国内乗継機能充実** (高速船アクセス拡充)
- 国際線チャーター受入**整備 (アジアの近距離路線 <LCC>)
- ビジネスジェット、プライベートジェットの受入体制整備

他の空港をバックアップ
する可動性の高い空港
【国内海外サブゲート】



3空港がシームレスな就航体制を組み、空港間のスムーズなアクセス連携が確立されたサークル状態の空港体をイメージ
⇒ **限られたキャパにおける最大の輸送効果**
瀬戸内・中国四国へのゲートウェイとしても拡大が可能

「但馬空港」「白浜空港」は、東京からの就航を誘致し便利性を向上する
⇒ **温泉地 (城崎・湯村・白浜・勝浦) への需要喚起とキャンプ場誘致**

3.民営化後の空港に期待すること

空港整備と「おもてなし」で関西の魅力発信機能を！

空港機能の拡充と集客効果

世界の人気空港TOP10 (2016)

Skytrax社調査

- 1位 : チャンギ空港 (シンガポール) ※4年連続1位
- 2位 : 仁川空港 (韓国)
- 3位 : ミュンヘン国際空港 (ドイツ)
- 4位 : 東京(羽田)国際空港 (日本)
- 5位 : 香港国際空港 (中国)
- 6位 : 中部国際空港 (日本)
- 7位 : チューリッヒ空港 (スイス)
- 8位 : ヒースロー空港 (イギリス)
- 9位 : 関西国際空港 (日本) ※前年12位
- 10位 : ハマド国際空港 (カタール)

何とか
10位以内!

※前年12位

人気空港の特徴

- ①発着便が多く中心部へのアクセスが充実
- ②空港内の導線やC I Qがスムーズ
- ③設備が充実 (Wifi・シャワー・簡易宿泊等)
- ④空港内空間のアミューズメント施設化
- ⑤トランジットツアーの実施
- ⑥空港見学ツアーの実施
- ⑦バリアフリー設備の充実

空港自体が人気の集客施設

世界
水準
へ

空港の魅力付けと利便性向上

アクセス網の整備

- ①関西国際空港と中心部の鉄道アクセス増便 (ビジネス、M I C E 需要獲得)
- ②ミッシングリンクの早期整備 (陸路交通整備)
- ③関空～神戸の乗継アクセスの深夜対応

手続きの簡略化

- ①モバイルチェックインによる時間他短縮
- ②自動出入国システム拡大 (C I Q スピード化)
- ③各出発ゲートでのセキュリティーチェックの実施
- ④ファストレーンの利用 (出国手荷物チェック)

空港のブランド化

- ①空港の人気ショッピングアーケード化
- ②映画館、水族館等導入でアミューズメント化
- ③宿泊、温泉、シャワー等滞在型設備の拡張
- ④イベント開催 (コンサート、トランジット・見学ツアー)
- ⑤ユニバーサルデザイン推進

3.民営化後の空港に期待すること

関係事業者との連携による「過ごしやすさ」インフラ整備の推進

「KANSA I all in one PASS」

関西2府4県内のJR、私鉄、バス、船舶、タクシー、索道に共通で利用できるパス
地域の観光関連事業者と連携し、PASS自体の魅力付けと長期滞在を促進

「外国人に分かり易い表記」への変更

多言語表記の地方への拡大
地方の受け入れ態勢整備とマイナー観光地での対応（教育）
「自動通訳アプリ」の開発

「Free Wifi」スポットの拡大

インバウンド客にとって言葉の次に不便さを感じる「Wifiスポット」の広域化が必要
都市圏はもちろん地方観光地においても同様登録は海外並みにハードルを下げて対応

「両替・支払」の便利性向上

クレジットカード活用の後進国からの脱却
カード利用可能店舗が少ない状況は、消費行動に悪影響を及ぼしている
国内事業者のカード利用の促進意識を高める

日本文化を伝える「観光ガイド」の育成

コト体験を希望する訪日客急増に対して、日本文化を正しく伝えられる通訳ガイドが不足しており、育成が急務

「免税店」拡大による街中ショッピング促進

免税対応店舗の拡大、ショッピング需要の高いアジアインバウンドの団体からFITの急速な変化に対応し、街歩きショッピングでの消費行動の動機付けを行う → 手ぶら観光の拡大も必須

空港の機能向上だけでなく、関西の多様な魅力を掘り起こし、
オール関西で磨き上げて発信

空港だけではなく、交通インフラや受け入れ環境を整備して、
滞在の利便性、快適性を追求

空港を利用して旅行に出かける施策、ムーブメントの醸成（官民あげて）
インバウンドと国内旅行の両方を伸ばす！